

2004年9月29日 プレスリリース

## ブラジルスウェーデンが ISO の社会的責任(SR)規格開発のリーダーとなる

ISO は、SR に関するガイドラインを提供する国際規格の開発を行う作業グループのリーダーシップを、ブラジル規格協会(ABNT)とスウェーデン規格協会(SIS)とに任命した。

ISO のメンバーであるこの途上国と先進国の Twinning 方式は、ISO メンバー国全 146 カ国の内の 110 カ国を占める途上国メンバーの参加を促進する為に適用されている手段の一つである。

国連事務局総長のコフィ・アナン氏は、最近の ISO へのメッセージとして、SR の規格開発の決定を「人権、労働条件、環境及び反不正に関する国際的な原則である国連のグローバルコンパクトと一致するイニシアチブである」と歓迎した。

SR を開発する WG は、ISO の規格開発プログラムを監督する、ISO 技術管理評議会(TMB)に直接報告をすることとなる。

ISO は近々SR 規格開発の NWIP をメンバー機関に回付する(編集者注:2004年10月7日に各 ISO メンバー機関に回付)。メンバー機関は、提案に対して3ヶ月間の投票期間が与えられる。提案は、メンバー投票の過半数の賛成と、少なくとも5つのメンバーが活動に積極的な参加により、受け入れられることとなる。

参加を決めたメンバー機関は、産業、政府、労働、消費者、NGO、その他の6つのカテゴリーより、各一名ずつ、最大6名までのエキスパートをノミネートすることが奨励される。

同時に、ISO は WG に参加するエキスパートを各二名までノミネートする様、「リエゾン機関」として参加する国際機関に招待状を発行する

通常の ISO 作業方式に従って、作業グループは、参加するエキスパートの観点からのコンセンサスを代表する規格原案の開発を課されるだろう。同時に ISO は、エキスパートをノミネートするメンバー機関に国内で“国内委員会”を設置すること、またこの“国内委員会”が、WG によって、これから開発される規格原案に対しての、国の立場を明確にすることを期待する。

最終的な目的は、WG 内で得られたコンセンサスを、ISO メンバー機関による国際規格原案への投票を通じて承認することである。ISO のルールではリエゾン機関は投票することはできないが、ISO ルールはリエゾン機関からの十分な公式の支援を得られることを規定しており、SR 規格の国際規格原案段階、最終国際規格原案段階の両方の段階で、ISO は明白にこの規定を適用することとなる。

第1回 WG 総会を準備し招集するのは ABNT(ブラジル規格協会)と SIS(スウェーデン規格協会)の責任である。ISO は、規格が 2007 年に完成し発行されることが期待される。

<http://www.iso.org/iso/en/commcentre/pressreleases/2004/Ref935.html>